

# めぐみイエス・キリスト教会

2025年1月26日(日)第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第743号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

|        |                   |        |
|--------|-------------------|--------|
| 【前奏祈祷】 |                   |        |
| 【賛美Ⅰ】  | 新聖歌148「夕べ雲焼くる」    | p. 206 |
| 【交読文】  | No.50 イザヤ書53章(抜粋) | p. 919 |
| 【賛美Ⅱ】  | 新聖歌299「山辺に向かいてわれ」 | p. 476 |
| 【使徒信条】 |                   |        |
| 【主の祈り】 |                   |        |
| 【前回説教】 |                   |        |
| 【賛美Ⅲ】  | オリジナル曲「み言葉にかえろう」  |        |
| 【聖書朗読】 | ルカの福音書8章19節～21節   |        |
| 【礼拝説教】 | 《神の家族とは？》         |        |
| 【聖餐式】  |                   |        |
| 【賛美Ⅳ】  | 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」  | p. 236 |
| 【平和祈り】 |                   |        |
| 【頌 栄】  | 新聖歌63 「父・御子・御霊の」  | p. 85  |
| 【祝祷後奏】 |                   |        |

### ※本日の聖書箇所(ルカ8章19節～21節)新約p.128上段

8:19 さて、イエスのところに母と兄弟たちが来たが、大勢の人のためにそばに近寄れなかった。

8:20 それでイエスに、「母上と兄弟方が、お会いしたいと外に立っておられます」という知らせがあった。

8:21 しかし、イエスはその人たちにこう答えられた。「私の母、私の兄弟たちとは、神の言葉を聞いて行なう人たちのことです。」

## ●ポイント1. 共観福音書における同一平衡記事から

### ※マルコの福音書3章28節～35節「カペナウムにて」(新約p.71上段)

3:28「まことに、あなたがたに言います。人の子らは、どんな罪も赦していただけます。また、どれほど神を冒瀆することを言っても、赦していただけます。

3:29 しかし聖霊を冒瀆する者は、だれも永遠に赦されず、永遠の罪に定められます。」

3:30 このように言われたのは、彼らが、「イエスは汚れた霊につかわれている」と言っていたからである。

3:31 さて、イエスの母と兄弟たちがやって来て、外に立ち、人を送ってイエスを呼んだ。

3:32 大勢の人がイエスを囲んで座っていた。彼らは「ご覧ください。あなたの母上と兄弟姉妹方が、あなたを捜して外に来ておられます」と言った。

3:33 すると、イエスは彼らに答えて「私の母、私の兄弟とはだれでしょうか」と言われた。

3:34 そして、ご自分の周りに座っている人たちを見回して言われた。「ご覧なさい。私の母、私の兄弟です。

3:35 だれでも神のみ心を行なう人、その人が私の兄弟、姉妹、母なのです。」

## ●ポイント2. 神様の約束とは？

### ※使徒の働き1章14節「ヨハネ・マルコの家にて」(新約p.233上段)

1:14 彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちと共に、いつも心を一つにして祈っていた。

### ※使徒の働き16章31節「ネアポリスにて」(新約p.268下段)

16:31後節「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」

## ◎先週のメッセージ【神様の明かり】

《私たちは、恵みによって救われました。それは証しをする為です。この世を創造された真の神様がおられること、そのお方こそが、私たちの罪の身代わりとして十字架に掛かって死んで下さった主イエスであること。そして、私たちが永遠に生きる為に、三日目によみがえって下さったことを、人々に証しし、伝える為なのです。

「明かりをつけてから、それを器で隠したり、寝台の下に置いたりする人はいません。燭台の上に置いて、入って来た人たちに光が見えるようにします。」と主イエスは言われましたが、この「明かり」こそ、私たちのことです。以前、山上の垂訓においても、主は弟子たちに、「あなたがたは世の光です」とも言われました。

なぜなら、この世は真っ暗闇だからです。明かりが必要です。主はご自身のことを「私が世にいる間は、私が世の光です。」と言われました。今は、私たちが「世の光」であり「神様の明かり」なのです。そして、光は闇を照らし、隠れている物やそこにある物を明らかにします。

また主は、「ですから、聞き方に注意しなさい。持っている人はさらに与えられ、持っていない人は持っていると思っているものまで取り上げられるからです。」と言われます。これは、「聞く耳のある者は聞きなさい」と同じ意味で、み言葉を聞いただけで実行しなければ、良い実を結ぶことは出来ないと言う事です。そして、「持っている人」とは、み言葉と信仰を持っている人のことで、その人はさらに成長し、主から多くの物が与えられます。また「持っていない人」とは、み言葉を心に留めることもなく、主に対する信頼を持っていない人のことです。

成長するどころか、やがてその信仰もしぼんでしまいます。ここに、「命のある者」と「命のない者」の差が生まれて来ます。私たちは、真に「神様の明かり」です。主のみ言葉を持ち続けている限り、この世において「神様の明かり」として、絶え間なく輝くことが出来るのです。》

## ◎お知らせ

※次回は2025年2月2日午前10時より、通常通り行ないます。